



聴覚障害とは？

●ろう（あ）者

⇒ 手話を第一言語としている人がほとんど

●難聴者

⇒ 聞こえにくいけれど、まだ聴力が残っている人

●中途失聴者

⇒ 音声言語を獲得した後に聞こえなくなった人



聴覚障害者とのコミュニケーションの手段

☆視覚の活用

手指言語（手話・指文字）・文字言語
（書記日本語・筆談）

☆触覚の活用

触手話・指点字・振動

☆聴覚の活用

音声言語



日本手話と日本語対応手話の違い

- 日本手話
- 日本語対応手話



ろう者サービスとは、 どういうサービスか？



1. 日本語字幕・手話付き映像資料の制作

- ろう者(聴覚障害者)の講演(枚方市聴力障害者協会主催の講演等)を講演者と主催者に許可をとり、中央図書館の職員(ろう者)が収録している。収録した映像を職員(ろう者)が編集して手話版の映像資料を制作している。
- 当館に登録している字幕挿入等編集協力者の協力を得て手話版の映像資料を日本語に翻訳して字幕版の映像資料も制作している。
- 枚方市内在住のろう者(聴覚障害者)の手話語りを5階の映像スタジオ内で収録している。



1. 日本語字幕・手話付き映像資料の制作

制作本数

■ 平成19年度
6タイトル

■ 平成20年度
3タイトル

1タイトルの年間貸し出し回数
平均6回(貸出の多いタイトルで年間12回の貸出)



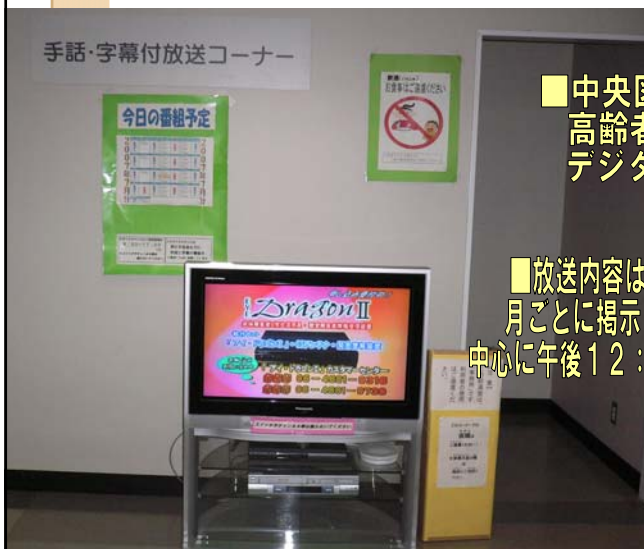
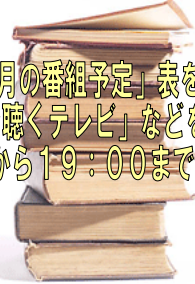
2. CS「目で聴くテレビ」放送コーナーの設置

手話・字幕付放送コーナー



■ 中央図書館5F 障害者・
高齢者サービスフロア内に
デジタルテレビを設置

■ 放送内容は「今月の番組予定」表を
月ごとに掲示し「目で聴くテレビ」などを
中心に午後12:00から19:00まで放映



3. 手話で楽しむおはなし会

- 毎月第4土曜日 午後2時から30分間 実施
- ろう2名(職員とボランティア)
手話の出来る職員 2名(聴者)
計4名の体制で実施
- 参加者数 14名から20名
- 対象者 ろう児 聴こえる子供
および その保護者



4. 手話ブックトークの開催

中央図書館6F 多目的室で平成20年3月に開催

→ 参加者より今後も継続してほしいと申し出る



平成20年度より定期的年3回開催

—内容—

- 制作ビデオの紹介
- テーマを決めて関する本の紹介
- すばなし(ストーリーテリング)



中央図書館での手話ブックトークの様子



5. 施設訪問による手話ブックトークの実施

平成18年12月よりスタート
年に4回 社会福祉法人わらしべ会
障害者相談支援センターで実施

—内容—

- 当館制作ビデオの紹介
 - 参加者からの本に関する質問の紹介と回答
- 例 ・国産牛と和牛の違い
・大岡越前と遠山金さんの関わり
・坂本龍馬の秘話など



施設訪問による手話ブックトークの様子



6. ろう者(聴覚障害者)のための利用案内(映像版)の制作

4～5年ごとに制作

- 「聴覚障害者のための利用案内2005年版」制作
33分 VHS 1本・DVD 2枚 中央図書館所蔵

⇒ **2009年版（現在・制作中）**



7. ろう者(聴覚障害者)に対する窓口対応のマニュアル作成 と接遇研修

- 平成18年度 枚方市立図書館 障害者サービス委員会が
ろう者に対する窓口対応のマニュアルを作成

- 研修(接遇など)
平成20年9月に中央図書館カウンターを従事
する正・非常勤職員を対象したろう者に対する
窓口における接遇の研修を実施
 - 手話実技指導
 - 筆談の注意点



8. バリアフリー

- 手話バッチ
- 耳マーク
- 電光掲示板
- カウンター設置の補聴器サポートシステム
- ドラム式磁気ループ



手話バッチ



耳マーク



●これからのサービスの課題

- ①手話によるブックトークなどのDVD制作による有効活用
- ②手話付映像資料の手話翻訳のスキルアップとサポート



終

見聞いただき
ありがとうございました

